

中国における環境 NGO の展開と現在

—— 貴州省草海と古勝訪問から ——



総合地球環境学研究所 児玉香菜子

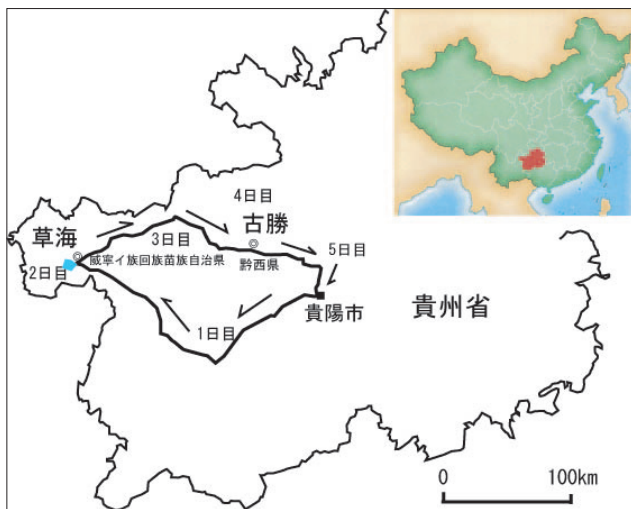


図1 巡検ルート

巡検とは、議論をしながら、現場を調べてまわることをいう。今回の巡検の目的は、中国初の農民による環境 NGO の実態を創設者である鄧さん（現アラ善 SEE 生態協会）の案内で視察することであった。

巡検ルートは鄧さんの環境 NGO の展開に沿うものであった（図1）。

まず訪問したのが、鄧さんが環境 NGO に関わるきっかけとなった貴州省西部に位置する草海自然保護区（威寧回族苗族苗族自治县）である。ここには黒頸鶴（オグロヅル）が飛来する湖と湿地帯が広がる。

草海の住民と地元政府は緊張関係にあった。なぜなら、1985年にツルを保護するために草海が自然保護区に指定され、農地のおよそ約半数を失うとともに、重要な産業であった湖水漁業が制限されるようになったからである。農民からみれば、自然保護のために生活の糧を奪われたようなものである。こうしたなかで、

当時、保護区管理局の職員で、環境保全を強く主張し、禁漁期の漁を厳しく取り締まっていた鄧さんと地元住民は激しく対立したという。それが、互いに話し合い、議論するなかで、住民は環境保全を図ることは子孫のためであるという鄧さんの主張に共感する。

鄧さん自身も環境保全には住民の理解と参加が必要であることと痛感する。このときから、鄧さんは、環境保全とは貧困の解決であり、人と自然の関係を改善することであると考えるようになり、環境 NGO を通して実現させていく。

1994年から、鄧さんは農民に海外資金によるプロジェクトを誘致し、農民はファンドの受け皿として環境

NGO「草海農民保護協会」をたちあげた。観光開発、環境教育などさまざまなプロジェクトが実施された。しかし、現在、協会は休止状態にある。住民にその理由を聞くと、声をそろえて「資金がない」という。資金を海外プロジェクトの資金に頼りすぎたため、外部からの資金がなくなれば行き詰ってしまうのだ。

こうした経験を踏まえて、鄧さんは古勝（貴州省黔西県）で新しく活動を開始する。鄧さんは古勝の農民を組織化し、農民自身に環境保全のプロジェクトを立案させたのだ。提案されたのが「封山」である。「封山」とは、これまで薪の採集や木材が伐採されてきた共有の山の利用を禁止することである。その見返りとして、支援者側に道路の整備が要請された。車が入れる道路がないため、農作物を外に売ることが困難であったのだ。

封山によって薪の採集ができなくなったために、燃料源として石炭を



巡検メンバー

上 左から秋山（愛知大学）、中尾、色音（北京師範大学）

下 左から鄧儀（アラ善SEE協会）、丁平君（アラ善SEE協会）、古勝の農民、筆者



草海の農家の庭先でインタビュー



草海に飛来する黒頸鶴

利用するようになり、支出が増えたという。それでも、上からの押し付けではなく、自分たちで決めたルールであるため、ルールを破る人はいないという。プロジェクト立案と実現までの過程を生き生きと語る農民の目が印象的であった。

山から人間を完全に排除する方法、石炭へのエネルギー転換という側面を考えたとき、環境保全の効果に関しては疑問が残る。別途、検証が必要であろう。しかし、この地域にもたらされたものは大きい。それは、住民自らがプロジェクト立案にかか

わることによって進んだ民主化である。その結果、この村で実施された村の選挙において、行政側が推薦した人物ではなく、住民が自ら選んだ候補者が当選した。

現在でも、古勝の NGO は独自の資金を得て、活発に活動している。しかし、道路の建設という目的が果たされたためであろうか、住民は NGO プロジェクトの参加にあまり積極的ではなくなりつつあるようであった。

現在、鄧さんは内モンゴルに活動の場を移し、これまでの経験を活かしながら、16 のプロジェクトを立ち上

げている。古勝最後の日、内モンゴルから視察に訪れていたモンゴル族の牧民たちに出会った。古勝がどのように発展しているのかを勉強しに来たという。彼らは全員牧民で行政関係者は一人もいない。そう言えば、今回の巡検でも行政関係者と会うことがまったくなかった。これまで NGO 関係者は全員男性であったが、視察に来ていた牧民たちの約半数が女性であった。牧民たちが貴州の NGO から何を学び、どのようなプロジェクトを立案するのか、拠点として注目していきたい。

摘要

环境 NGO 在中国的活动情况 — 探访贵州省草海与古胜 —

综合地球环境学研究所 儿玉香菜子

我们在创始人邓先生的带领下，考察了中国第一个由农民发起的环境 NGO 的活动情况。在中国开展环境 NGO 活动，不仅要保护环境、保护自然，消除贫困、改变人们

的环境意识也非常重要。当地居民通过实践环境 NGO 的活动，还将进一步推动当地居民的民主化意识。

Abstract

The development and current status of environmental NGOs in China A visit to Guizhou Province, Caohai, and Gusheng

RIHN KODAMA, Kanako

Guided by Mr. Deng, the founder, we went to observe the current status of the first Chinese environmental NGO set up by farmers. From the activities of the environmental NGO in China, it became clear that to maintain the environment, it was important not only to protect nature, but also to solve

the problems of poverty and to revolutionise people's way of thinking. Further, I could also see that local democracy is being fostered amidst the environmental NGO activities implemented by the local residents.